



よこはま



URL <http://www.mod.go.jp/rdb/s-kanto/>

海上自衛隊航空集団は創設50周年を迎えました。



祝賀会で御挨拶をする
航空集団司令官 畑中海将



航空集団は昭和36年に新編された海上自衛隊の航空部隊であり、昨年、50年を迎えました。司令部を厚木航空基地に置き、全国に14個の部隊を配置しています。航空集団は航空機により毎日我が国周辺海域の警戒監視、民生協力(災害派遣)、航空救難などの任務を行っているほか、ソマリア沖アデン湾における海賊対処のため、航空機をアフリカに展開しています。

写真は航空集団司令部提供

◇目次◇

- 1 局長 あいさつ
- 2 防衛白書の地方公共団体への説明
- 3 第17回防衛問題セミナーの開催
- 4 米軍池子住宅地区の一部土地の共同使用
- 5 キャンプ座間の一部土地の返還
- 6 米軍司令官の交代式
- 7 在日米軍従業員永年勤続者表彰式
- 8 沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施
- 9 局長感謝状贈呈
- 10 中型掃海艇「ちちじま」命名・進水式
- 11 エア・フェスタ浜松2011

編集企画:南関東防衛局 広報紙「よこはま」編集委員会

発行:南関東防衛局 総務部報道室 Tel. 045-211-7129

〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎

1. 局長 あいさつ



南関東防衛局長
山本 達夫
(やまもと たつお)

新年明けましておめでとうございます。

昨年の3月11日の東日本大震災は未曾有の被害をもたらし、多くの方々が被災されました。今や、数次にわたる補正予算の成立、復興庁の設置法案の成立など徐々に復興に向けての取り組みが本格化しております。歴史を振り返ってみると、世界的にも有数の火山帯に位置する我が国では、地震を始めとする多くの大規模な自然災害に見舞われながらも、時々の先人たちは、力を合わせ、勤勉に復興の槌音を響かせ、被災から立ち直り、従前にも増す繁栄を築いてきました。今に生きる私たちも、一人一人がそれぞれの持ち場で職責を果たし、復興を支えるとともに、平和で繁栄した祖国日本を築いていかなければなりません。

防衛省・自衛隊は我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つことを任務としています。その任務の達成のために、適切な規模の防衛力を整備するとともに、日米安保条約に基づく日米同盟関係の信頼性の向上に努めてきました。南関東防衛局の管内には、これらの基盤となる自衛隊、在日米軍の重要な防衛施設が数多く所在しています。とりわけ、今後大規模地震の発生も想定される当局管内で自治体等の防災意識が高まり、あるいは、アジア太平洋地域が世界経済の成長センターであると同時に安全保障面でも重要地域と位置づけられる今日、自衛隊及び在日米軍の各種活動の拠点となる防衛施設の意義は益々高まっております。一方で、防衛施設は、周辺地域の発展の障害や住民の皆様の生活の御負担となっています。南関東防衛局としては、関係の皆様との理解と協力を賜りながら、民生の安定と防衛施設の安定使用との調和を図るべく最大限の努力をしております。

同時に、当局は、管内における「防衛行政の拠点」として、防衛政策についての皆様との御理解を深めていただく取り組みを積極的に進めるとともに、管内の防衛省・自衛隊の関係機関が持つ機能、能力を総合的に発揮できるよう、関係機関の「ネットワークの核」としての役割を果たしてまいります。

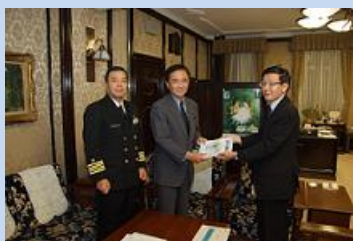
本年もよろしくお願い申し上げます。

2. 防衛白書の地方公共団体への説明

防衛白書は、我が国の防衛政策に対する内外の理解を得るために毎年刊行しているもので、平成23年版で37回目になります。

今回の特徴として、3月11日に発生した東日本大震災への対応について、現場で任務に当たった隊員の声幅広く紹介し、また、新たな防衛計画の大綱、中期防衛力整備計画について詳しく紹介しつつ、国民の皆様が我が国の防衛を考える際の資料となるよう、多くの図表・写真・コラムを活用するなどして、防衛省・自衛隊の「ありのままの姿」をお伝えできるよう作成しています。

南関東防衛局では、防衛白書について、自衛隊地方協力本部などの協力を得て、神奈川県、山梨県、静岡県の各知事をはじめとする、地元の地方公共団体の皆様にご説明させていただきました。



神奈川県知事への説明(10/20)



山梨県知事への説明(11/9)



静岡県副知事への説明(11/10)

3. 第17回防衛問題セミナーの開催

南関東防衛局は、平成23年11月2日、神奈川県横浜市磯子区の磯子区民文化センター杉田劇場において、「大震災に備えて～災害対処の取組みについて～」をテーマに第17回防衛問題セミナーを開催し、約230名の来場者がありました。

今回の防衛問題セミナーは2部構成で、山本南関東防衛局長による主催者挨拶及び古尾谷神奈川県副知事からの来賓挨拶に始まり、第I部は、東北方面総監部 須藤政策補佐官が「東日本大震災における自衛隊の活動・任務」について、現地で活動した経験を踏まえて講演を実施しました。



主催者挨拶



来賓挨拶



第I部 須藤政策補佐官による講演

第II部は、「大震災の発生に対する地域防災の在り方について」と題して、須藤政策補佐官に加え、神奈川県安全防災局 神山災害対策課長、横浜市消防局 伊藤緊急対策課長、拓殖大学大学院生の小伊藤氏、東部方面総監部 山崎防衛課長を招き、パネルディスカッションを実施し、当局古屋企画部長がコーディネーターを務めました。それぞれの立場による防災、災害対処の取組み等が紹介され、災害対処における被災者からのニーズへの対応等に関し、活発な議論が行われました。



第II部 パネルディスカッション

左から
コーディネーター
古屋企画部長
須藤政策補佐官
神山災害対策課長
伊藤緊急対策課長
小伊藤氏
山崎防衛課長

来場者からは、「大震災における自衛隊等の活動に対する理解が深まった。」「自治体など関係機関との効果的な連携を期待したい。」などの感想が寄せられました。

4. 米軍池子住宅地区の一部土地の共同使用

南関東防衛局は、米軍「池子住宅地区及び海軍補助施設」の一部土地の共同使用について、逗子市より申請書の提出を受けました。申請書は、平成23年10月12日に平井竜一逗子市長から山本南関東防衛局長に提出されたもので、市民の公園として利用するため、当該施設の一部土地（約40㌔）について米軍との共同使用を求めるものです。



平井逗子市長から申請書の提出を受ける山本局長



平井逗子市長による申請内容の説明

「池子住宅地区及び海軍補助施設」については、平成22年9月の日米合同委員会において、約40㌔の土地の返還協議を継続すること及び返還までの間の米側要件が満たされた場合の共同使用について合意されました。

その後、当該土地の返還についての協議及び返還までの間の共同使用についての協議を日米間で鋭意実施してきたところ、平成23年11月の日米合同委員会において、返還手続に係る一定の方向性、共同使用に係る要件等について合意されました。

また、当該土地については、平成23年11月、財務省関東財務局において国有財産関東地方審議会が開催され、逗子市に対し都市公園敷地として一時使用することについて適当と認める答申がなされました。

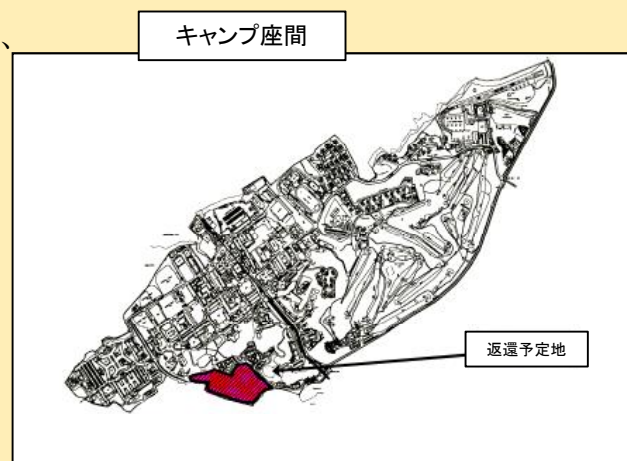
今後は、南関東防衛局、逗子市、米側からなる三者協議会において、具体的な土地の利用方法等を協議すると共に、早期の共同使用の実現に向け要件の整備を行ってまいります。

5. キャンプ座間の一部土地の返還

平成23年10月、日米合同委員会において、キャンプ座間の一部土地の返還が合意されました。

本件は、平成18年5月の日米安全保障委員会で承認された「再編の実施ための日米ロードマップ」に基づく、キャンプ座間の一部土地（1.1㌔と追加的な土地約4.3㌔）の返還に係るものです。

今後は、早期の返還に向け、具体的な手続きを進めていきます。



6. 米軍司令官の交代式

米海軍厚木航空施設司令官の交代式が平成23年12月9日、米海軍厚木航空施設において執り行われ、エリック・W・ガードナー大佐の後任として、スティーヴン・J・ウィーマン大佐が新司令官に就任しました。式典は、米軍、自衛隊の関係者及び地元元首長並びに当局からは山本南関東防衛局長が出席しました。

新司令官のスティーヴン・J・ウィーマン大佐は、空母ジョージ・ワシントンにおける洋上展開、大西洋艦隊航空司令部などの勤務を経て、航空施設司令官に就任し、着任挨拶で「地域との結びつきを強めたい」と述べました。

前司令官のガードナー大佐は、平成20年12月から3年間の在任中、横浜市、綾瀬市、大和市、海老名市、藤沢市、茅ヶ崎市、座間市及び相模原市等の周辺自治体との間で、災害対応準備及び災害救援の共同活動に関する覚書を締結し、災害対応計画の作成、初動対応訓練の実施等に尽力されました。ガードナー大佐は、イタリア ナポリにある米海軍欧州・アフリカ・東南アジア地域統合司令部へ参謀長として赴任します。



司令官交代式
在日米海軍司令官 クロイド少将に敬礼をする新司令官 ウィーマン大佐（中）と前司令官 ガードナー大佐（右）
（米海軍厚木基地HPより）

7. 在日米軍従業員永年勤続者表彰式

平成23年10月21日、横須賀市にある横須賀市文化会館大ホールにおいて、横須賀地区の平成23年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式が行われました。

在日米軍従業員永年勤続者表彰式は、永年にわたり在日米軍基地に勤務してきた従業員の労をねぎらい、併せて労働意欲及び作業能率の向上を図るため日米の共催により毎年実施されているものです。本年は、10年表彰174名、20年表彰177名、30年表彰118名、40年表彰1名の合計470名の方々が受賞されました。

南関東防衛局管内では、このほか、10月14日に富士地区で、また、10月26日に座間地区で永年勤続者表彰式がそれぞれ開催されました。



横須賀地区：永年勤続者表彰式



座間地区：永年勤続者表彰式



富士地区：永年勤続者表彰式

8. 沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施

平成23年11月、陸上自衛隊北富士演習場で、10回目となる沖縄の米海兵隊による沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施が行われました。

今回の訓練は、6月の東富士演習場での訓練同様、大隊レベルで実施され、人員約430名、車両約100両及び155mm榴弾砲12門による実弾射撃訓練が、11月11日から22日までの10



訓練前のブリーフィング

日間（13日及び14日を除く）、安全に行われ、訓練部隊は12月2日までに撤収しました。

実弾射撃訓練前の11月9日には、梨ヶ原廠舎地区において、訓練部隊である第12海兵連隊第3大隊長等による報道機関に対するブリーフィングが、訓練期間中の16日には、地元自治体や報道機関に対する訓練公開が行われました。また、同日、地方協力局豊田次長、中村地方企画課長及び当局山本局長による視察が行われました。



訓練公開



当局は、訓練が行われる山梨側においては、梨ヶ原廠舎地区内に企画部次長を本部長とする現地対策本部を設置するとともに、キャンプ富士がある静岡側では滝ヶ原駐屯地近傍に現地連絡所（射撃訓練終了後は滝ヶ原を現地対策本部とし梨ヶ原を閉所）を設置し、約1ヶ月の間24時間体制で米海兵隊との連絡調整、地元への連絡、演習場周辺等の警備、調達業務及び報道機関等への対応に当たりました。

11月9日には、実弾射撃訓練に先立ち、米海兵隊、陸上自衛隊、当局の間で緊急患者輸送訓練を実施しました。米海兵隊員が負傷した場合、状況により、陸上自衛隊のヘリコプターで負傷者を横須賀海軍施設の病院へ空輸することも想定されるため、負傷者の発生から、陸上自衛隊のヘリコプターに負傷者を輸送するまでの手順を確認するとともに、実際にヘリコプターによる離着陸訓練を行いました。また、負傷者を現地の病院へ救急車で搬送することも想定し、同日、米海兵隊と当局との間で、北富士演習場から現地病院への搬送ルートの確認も行いました。

訓練期間中には、実際に2件の緊急患者が発生しましたが、日米間で適切な調整が行われ大事には至りませんでした。

緊急患者輸送訓練



9. 局長感謝状贈呈

南関東防衛局は、平成23年11月18日、自衛隊の任務遂行に必要な防衛力の質的向上に大きく貢献された、三菱重工業株式会社汎用機・特車事業本部及び株式会社IHIマリンユナイテッド横浜工場に感謝状を贈呈しました。



三菱重工業（株）汎用機・特車事業本部



(株)IHIマリンユナイテッド横浜工場

10. 中型掃海艇「ちちじま」命名・進水式

平成23年11月24日（木）、ユニバーサル造船株式会社京浜事業所において、中型掃海艇（平成21年度契約、570トン型）の命名・進水式が行われました。当日は防衛省の代表として海上自衛隊河村横須賀地方総監はじめ南関東防衛局からは山本局長等の多数の防衛省関係者、会社関係者など約240人の人々が見守る中、「ちちじま」と命名されました。

「ちちじま」は「えのしま」型2番艇で、従来の木製の船体からFRP製（繊維強化プラスチック）となっていることが特徴です。平成22年5月24日に起工、平成25年3月に引渡し、同年に海上自衛隊に配備される予定です。

（写真はユニバーサル造船㈱提供）



11. エア・フェスタ浜松2011

エア・フェスタ浜松2011が、平成23年10月23日（日）航空自衛隊浜松基地において開催され、約5万人の見学者で賑わいました。

今回の航空祭では、浜松市の市制100周年を祝い、中等練習機「T-4」16機による「100」の数字をかたどった編隊飛行などが行われました。

また、基地内にはF15などの戦闘機やAWACSなどが展示されたほか、航空自衛隊の東日本大震災での救援活動を紹介するパネル展示も行われました。



T-4による「100」をかたどった編隊飛行



（写真は航空自衛隊浜松基地提供）